

◆講義③〔電子書籍の動向と図書館サービス〕◆（講師：植村 八潮）

質問1

公共図書館における電子図書館サービスの実施方法について、ご教示願います。

本市においても、昨年12月から同サービスを実施しています。同サービスについて、市町村単位の一公共図書館が、交付税を前提とした限られた予算配分の中で、（現時点では）紙書籍と比較し数倍高額な電子書籍を、利用者が満足できるような一定量を収集し続けることは困難ではないかと感じています。

従来の紙書籍とは異なる電子書籍の特性を鑑みれば、市町村単位ではなく、県単位以上レベルでの共同運営による実施が必要ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

回答

共同運営については、「デジとしょ信州（市町村と県による協働電子図書館）」の例が話題になっています。電子ジャーナルにおける大学図書館のコンソーシアム契約と似た手法で、これ自体は、面白い方法と思います。ただし、そこにおける選書の役割は分けるべきです。「デジとしょ信州」でもそうであるように、研究図書館としての役割が大きい都道府県立図書館と地域貢献の役割が大きい市町村図書館は、自ずと役割が異なり選書方針も異なっているはずです。

市町村の予算なくて県に頼るという発想は、極論すれば国立国会図書館が日本中の電子図書館を束ねればよい、ということになっていきます。地域における公共図書館の役割を放棄し、中央集権的な図書の取り扱いにつながりかねません。

電子書籍の予算については、質問3の回答も参考にしてください。

質問2

電子書籍の選定のアドバイスがありましたら教えてください。

回答

講義で取り上げております。

資料の以下のページを参考にしてください。

- ・電子書籍「資料収集方針（選書基準）」市町村立図書館回答例

質問3

電子書籍の重要性は理解しているものの、予算により導入が厳しく、対策を国でも考えていただくような方向性は今後何かあるのでしょうか。

回答

講義でも取り上げましたが、大学図書館はすでに電子資料費が紙の資料費を上回っています。米国での先行事例や、これまでの日本における電子図書館の動向を見れば、周回遅れではありますが、今後、公共図書館が大学図書館を追随していくのは明らかです。

紙の図書と電子書籍の役割分担を変えない限り、公共図書館は高齢者の集うリアルな場に留まり、世の中の情報のハブとしての役割を終えていくことになります。問題のありかを予算不足や電子書籍の価格に帰すことなく、予算配分も含め見直す必要があります。質問1の回答も参考にしてください。

質問4

将来の電子図書館を見据えて電子書籍を積極的に取り入れている図書館がありましたら、ご教示願います。(たちかわ電子図書館以外で)

回答

2022年8月2日付文科省事務連絡「1人1台端末環境下における学校図書館の積極的な活用及び公立図書館の電子書籍貸出サービスとの連携について」では、公立図書館との関わりについて、学校の児童生徒に対し公立図書館の電子書籍貸出サービスのIDを一括で発行している事例として大阪府東大阪市「ひがしおおさか電子図書館」と北海道帯広市「帯広市電子図書館」を紹介されています。あとは、札幌市中央図書館と札幌市図書・情報館などがすぐに思いつきます。

質問5

都道府県もしくは市区町村の公共図書館では、電子図書の導入が将来的に必要な意義はわかりやすく講義を聴かせていただきました。単行本での電子図書は紙の単行本に比べて、4倍の価格であることがわかっています。

公共図書館で、今後の紙での図書と電子図書の販売傾向を把握し、価格帯の動向に注視する方法があればご教示ください。

回答

今後、電子図書館課金は、既刊本の多くの本を一括で契約する「サブスクリプション契約」か、新刊・ベストセラーと中心にアクセスごとに経費がかかる「都度課金」などに移っていくと思います。今、高いと言われる電子図書館向け電子書籍は、専門性の高い本ですが、一方で実用書などは値段が下がっていくと思います。いずれにせよ、紙の図書と電子書籍の予算配分見直しは必須です。

質問6

電子図書館についての講義についてデータでの説明で現状が良く把握できました。

電子書籍タイトル数は増えてきたが2021年で11万タイトルに対して平均では5271タイトルしか公共図書館での貸出が無いということですが電子図書館を導入した当初は一時的に利用が増えるが継続的な利用や新規の利用が増えてないのではないかと思います。利用促進を図るためにさらにタイトル数を増やそうとしても予算の問題もあるのでなかなか新規に導入に踏み切れない図書館が多いのではと思います。当館も同じです。今後電子図書館

は必ず必要だと思しますので導入のためにはどのように進めて行けばいいでしょうか？

回答

講義でも触れましたが、「児童生徒の利活用と学校図書館の連携」があります（質問4の回答参照）。さらに障害者差別解消法、読書バリアフリー法における公共図書館の役割が重要視されています。程なく、文部科学省などから公共図書館には「電子書籍によるアクセシビリティ対応」が強く求められると思います。先んじて取り組まれることをおすすめします。

質問7

電子書籍の利便性、必要性について理解しているし、ライセンス料についての理解もあるつもりですがいかんせん、料金が高額となる。ベストセラー書の電子化が難しいとのことですが、利用の見込まれる書籍についてそういう状態であれば利用度は上がらないと考える。利用度が見込めないものの予算化は現状非常に厳しい。こういったことに対する対応策などあれば教えていただきたい。

回答

講義でも述べましたが、ベストセラーで自館の利用度を上げるという考え自体、賛成しかねます。それが公共図書館の本来の使命ではないはずです。ベストセラーに頼らず市民から愛されていて利用度が高い公共図書館はいくつもあります。

質問8

たちかわ電子図書館で、小学校用の利用カードの配布が2022年9月中旬とありますが、2021年ではないでしょうか。

回答

大変失礼しました。ご指摘の通りです。